



株式会社フォーカスシステムズ

2022年3月期決算説明会

2022年5月24日

イベント概要

[企業名]	株式会社フォーカスシステムズ
[企業 ID]	4662
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 3 月期決算説明会
[決算期]	2021 年度 通期
[日程]	2022 年 5 月 24 日
[ページ数]	22
[時間]	16:00 – 16:25 (合計：25 分、登壇：21 分、質疑応答：4 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 森 啓一（以下、森）

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1	2022/3期（第46期）決算	P. 3
2	2023/3期（第47期）業績予想	P.19
3	<ご参考> トピックス	P.22
4	<ご参考> 当社の概要	P.27

森：皆さん、こんにちは。株式会社フォーカスシステムズ、代表取締役社長の森でございます。本日はご多用の中、ご参加いただき誠にありがとうございます。

早速ですが、第46期の決算説明会を行いたいと思います。本日は主に、この1番目と2番目、22年3月期の決算の概要と、今年度23年3月期第47期の業績予想についてお話をさせていただきます。

売上高・各利益とも前期・予想を上回って着地

- 新規案件が利益率を押し上げ
- 大型案件の獲得が成長をけん引
- プロジェクト管理の徹底によるリスク最小化で全体を下支え

(単位：百万円)

	FY2021 実績	FY2022 計画	FY2022 実績	前期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	23,485	24,500	26,278	2,792	11.9%	1,778	7.3%
営業利益	1,450	1,480	1,640	190	13.1%	160	10.8%
経常利益	1,469	1,500	1,600	131	9.0%	100	6.7%
当期純利益	1,025	1,030	1,066	41	4.0%	36	3.65%

© 2022 Focus Systems Corporation

4

まず、22年3月期の決算の概要からです。

概況ですけれども、売上高・各利益とも前期予想を上回って着地しました。過去最高の売上高および利益を更新いたしました。

主な理由としましては、新規案件が利益率を押し上げたということですね。既存案件の拡大だけではなく、1次請けを含めて新規案件の獲得が増えております。また、大型案件の獲得が成長を牽引しております。公共も民間も、今後につながる大型案件を複数獲得してしまっていて、それが今年度の数字に反映されたかたちになっています。

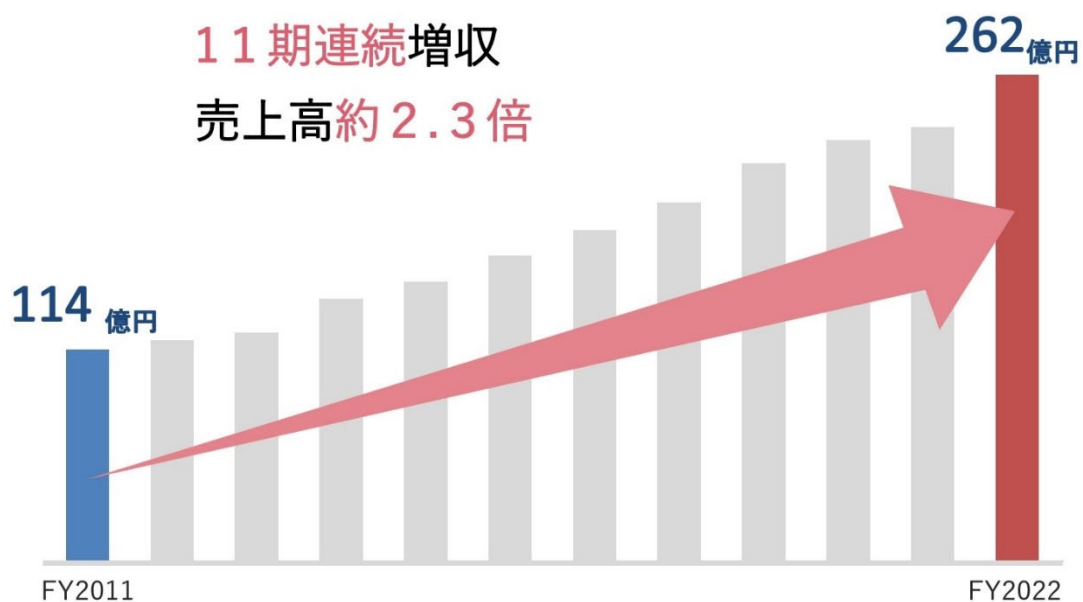
また、プロジェクト管理の徹底によるリスク最小化で全体を下支えというのも、もう一つの理由です。不採算案件が毎年いくつかあるんですけれども、それが昨年度に関しては基本的になかったと。大きな不採算案件が起らなかったというのが非常に売上、利益とも好調になった理由の一つであります。

それを受けまして、実績としましては、売上高が262億7,800万円、昨年度同期に比べまして11.9%の増加。営業利益が16億4,000万円、13.1%の増加。同じく経常利益が、16億円で9%の増

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

加。そして当期純利益は、10 億円 6,600 万円で 4%の増加。いずれも昨年比および計画値を上回る結果となりました。

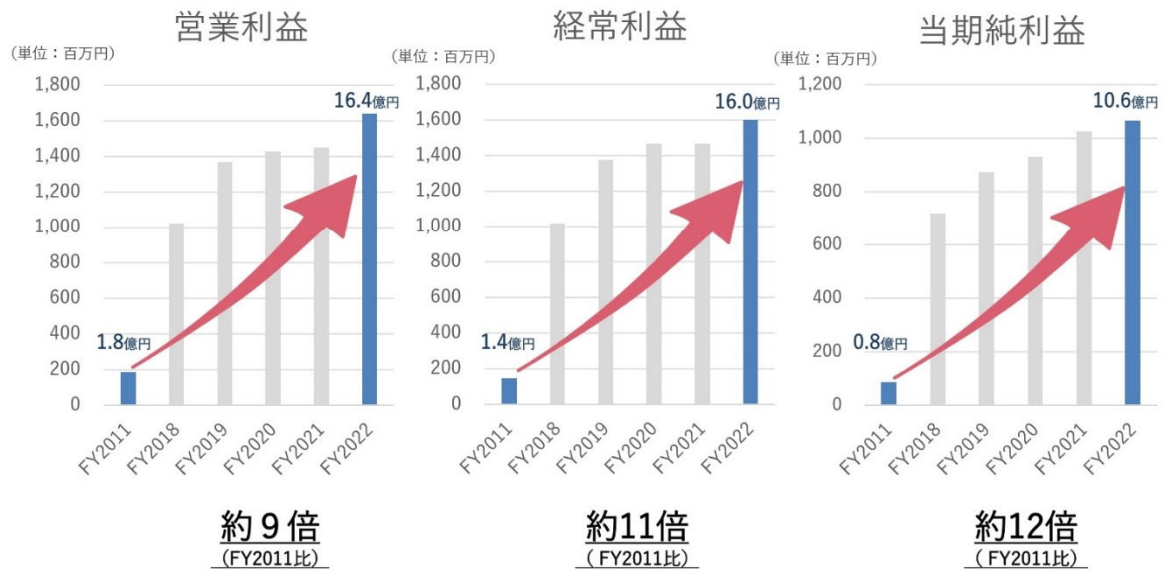


売上高の推移ですけれども、2011 年から 11 期連続で増収を達成することができました。売上高としましては約 2.3 倍、114 億円から 262 億円というかたちでの増収、11 期連続となっています。また、利益も 5 期連続の増益となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5 期連続増益



© 2022 Focus Systems Corporation

6

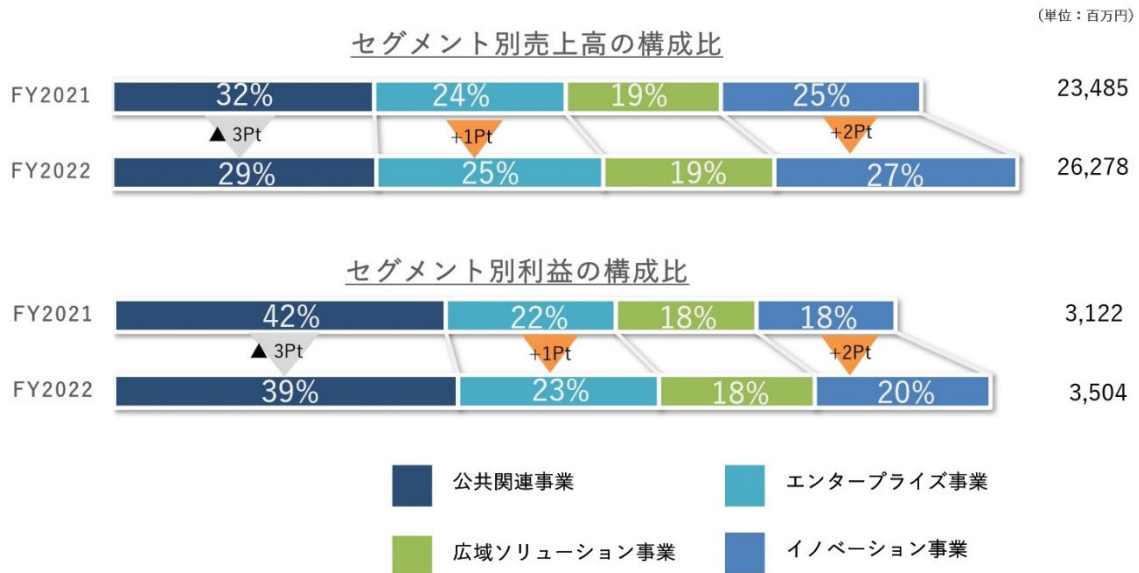
また、この数字は 2011 年と比較しておりますけれども、2011 年と比較しましても、営業利益で約 9 倍、経常利益で約 11 倍、当期純利益では約 12 倍と、この 10 年間、会社としては順調に成長してきたということが言えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

売上は +2,792百万円（前年度比） 利益は +382百万円（前年度比）

セグメント別の構成比では、売上高・利益ともにエンタープライズが1Pt、イノベーションが2Pt上昇



© 2022 Focus Systems Corporation

次に、セグメント情報のサマリーです。

セグメント別の売上高の構成比は、このグラフのようになっています。上が売上高、下が利益となっています。

公共が、若干両方とも構成比としてはマイナスになっていますけれども、それを上回る民間の構成比の上昇というかたちで、会社としては、全体としては増収増益となっています。特に昨年度におきましては、民間の成長が大きい期となりました。

サポート

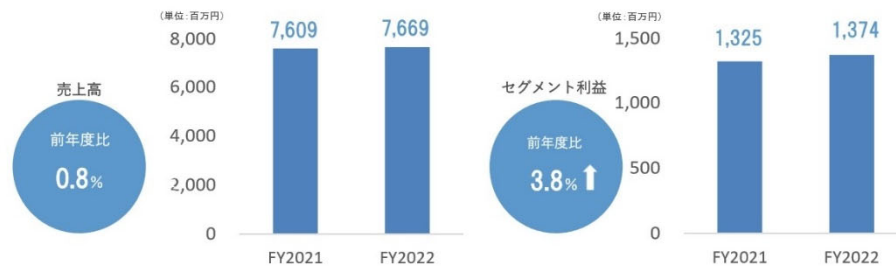
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

公共関連

主に官公庁及び地方自治体を最終ユーザーとする社会インフラ基盤に係るシステムの設計・製造からシステム稼働後の運用・保守

<増収増益>

新規案件獲得等により大型案件反動減を吸収、第4四半期に成長基調へ。



■ 既存案件の堅実な進行がセグメント業績の下支えに貢献。

例) 電子申告システム、マイナンバー関連、自動車登録システム、貿易流通システム、官公庁会計システムほか

8

次に、各セグメントの内容です。まず公共関連です。

売上高、セグメント利益とも、売上高は0.8%と微増ですけれども、これは前年度末までであった医療系の大きな開発案件が、今期運用フェーズに入りました。その反動で、第3クォーターまでは減収減益が続いていたんですが、最後の第4クォーターで新規案件等も積極的に獲得して、全体では巻き返しを図って、売上高、利益ともに昨年度を上回る結果となりました。

サポート

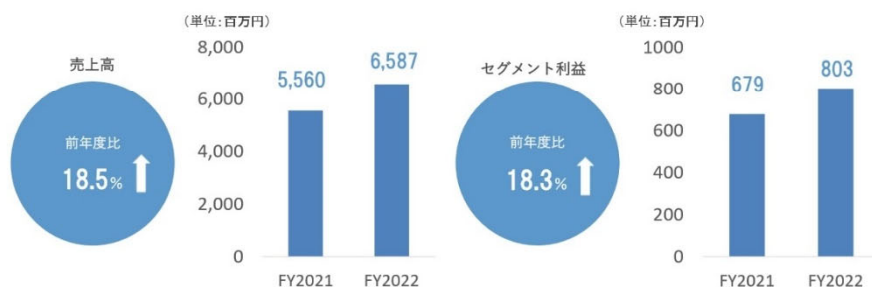
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

エンタープライズ

主に法人企業の基幹業務システム・Webシステムの開発、ネットワーク・インフラの設計・構築、RPAソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

<増収増益>

ネットワークインフラと基幹業務システムにより、既存新規とも成長加速。



- クラウド化とクラウドサービスへの需要が顕著。事業部間連携により受注機会が増加。
- RPAと新たなセキュリティソリューション導入も事業拡大に寄与。

次に、エンタープライズです。

こちらは引き続き、ネットワーク・インフラというものが、ここ数年非常に順調で大幅に成長しております。また基幹業務システム、ここは intra-mart であったり、SAP のほうをしているんですけども、intra-mart は非常に順調で、大変好調な 1 年でした。

また SAP のほうは、提案までのリードタイムが若干長くて、前期の数値に直接影響を与えるところまではもう一歩だったんですけども、本格参入から 1 年半ほど過ぎまして、引き合いも増えておりますので、今後に期待している状況であります。

会社として、intra-mart と SAP の両方をやっているところは数少ない状況ですので、それを両方もきちんとこなせば、さらに伸びていくのではないかと期待しております。

サポート

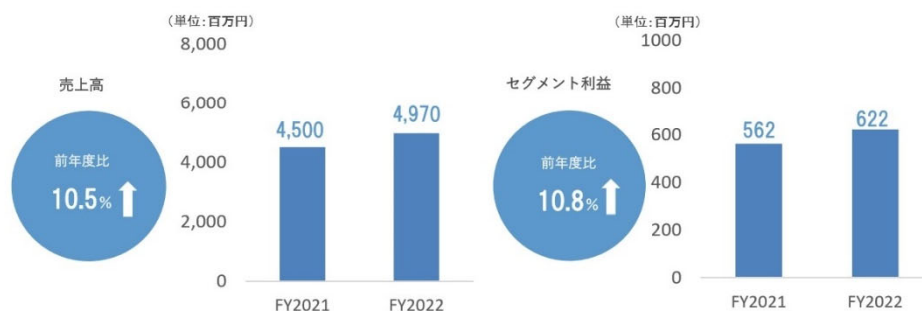
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

広域ソリューション

主に東京・名古屋・大阪地域における、通信制御システム開発、組込みシステム開発、民間企業・行政機関向けシステム開発、AIソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

<増収増益>

既存分野はプロジェクト管理で安定成長を堅持、新規入札案件の獲得に成功。



- 主に東京・大阪で獲得した新規案件が業績に寄与。
- 事業セグメント全体でローコード開発案件等も積極的に組入れ、商機を拡大。

続いて、広域ソリューションです。

これは東京以外に、名古屋、大阪も管轄しているんですが、こちらは特にこれといって大きなあれはないですけど、全体として増えていったという内容があります。また名古屋圏では、昨年度ちょっと下火だったんですけども回復基調にあって、組み込み系は一方で、車載技術が一巡し、準備期間に入っている状況です。

名古屋はトヨタさんがどうしても強い地盤ですので、トヨタの仕事をきちんと受けられるかたちになれば、さらに成長が見込めるのではないかと考えております。

サポート

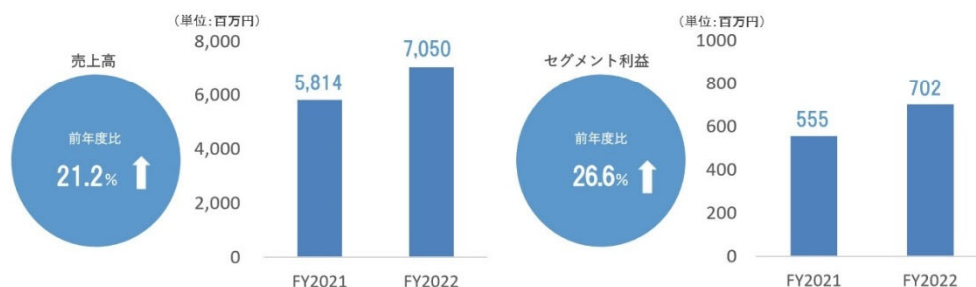
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

イノベーション

主にインフラ基盤設計・構築、メインフレーム構築、システム開発、付随する運用・保守、自社製品の製造、IoTソリューションの提供

＜増収増益＞

インフラ設計構築が堅調な伸びを維持し、新規の大規模案件獲得で成長加速



- 主要顧客の分社化に対応することで、ビジネス機会の最大化に注力し、事業基盤を一層強化。
- 情報セキュリティに関わる自社暗号化製品等の販売好調が成長に寄与。

そして、次がイノベーションです。

こちらは、主なトピックとしましては、日本 IBM が分社化しました。日本 IBM とキンドリルという会社に分割したんですけれども、それぞれの会社に分割したことで、弊社としてそれがどういう影響になるのかわからなかったんですが、実際は両社とも元々の仕事量以上の案件への協力を依頼されていますので、そういった意味ではさらにこのセグメントは伸びていくと、拡大が可能なセグメントであると考えております。ですので、日本 IBM、キンドリルともに、さらに伸びていくことができると考えております。

以上がセグメント別の概況なんですけれども、今、ご説明させていただいたとおり、それぞれのセグメントにおいて全て伸びているというのが昨年度の結果でした。そういった意味では、会社としては非常に順調な1年であったと言えると思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
(資産の部)		
流動資産	9,812	10,869
固定資産	7,995	12,503
有形固定資産	3,505	3,510
無形固定資産	145	155
投資その他の資産	4,344	8,836
資産合計	17,808	23,372
(負債の部)		
流動負債	4,571	5,277
固定負債	2,172	3,330
負債合計	6,744	8,608
(純資産の部)		
株主資本	9,225	9,869
資本金	2,905	2,905
資本剰余金	2,148	2,158
利益剰余金	4,527	5,156
自己株式	△354	△350
評価・換算差額等	1,837	4,894
純資産合計	11,063	14,764
負債純資産合計	17,808	23,372

前事業年度末に比較し5,564百万円増加

(主な増加理由)

- ・投資有価証券の増加 4,439百万円
- ・売掛金及び契約資産の増加 613百万円

前事業年度末に比較し1,863百万円増加

(主な増加理由)

- ・繰延税金負債の増加 1,298百万円
- ・買掛金の増加 332百万円
- ・長期借入金の増加 219百万円

(主な減少理由)

- ・社債の減少 360百万円
- ・1年内償還予定の社債の減少 150百万円

前事業年度末に比較し3,700百万円増加

(主な増加理由)

- ・其他有価証券評価差額金の増加 3,056百万円
- ・繰越利益剰余金の増加 629百万円

続いて、貸借対照表です。

これは見ていただくとわかるんですけども、大きな数字というのが、投資有価証券ですね。資産の部分においては、投資その他の資産の増加。そして、株主資産の部においては、評価・換算差額等の増加ということで、これは弊社が保有しておりますFRONTEOの株式の時価に算定した結果であります。

皆さんご存知のとおり、うちはFRONTEOの株を持っているんですけども、非常に昨年度株価が上昇しまして、いろんなところから、その株価の上昇をどのように使うのかというご質問を受けているんですが、実際FRONTEOの株式自体が、乱高下が非常に激しい株価なんです。

ですので、会社としても、例えば売るにしても、そのタイミング自体が非常に難しいということもありまして、今のところ、それをさばくことは考えていなくて、きちんと会社が安定化していくことが、まずFRONTEOにとっては重要な課題なのかなと、会社としては思っております。しばらくはFRONTEOと一緒に、そこからの仕事を共にやれる仕組みを今後、つくっていきたいと思っております。

サポート

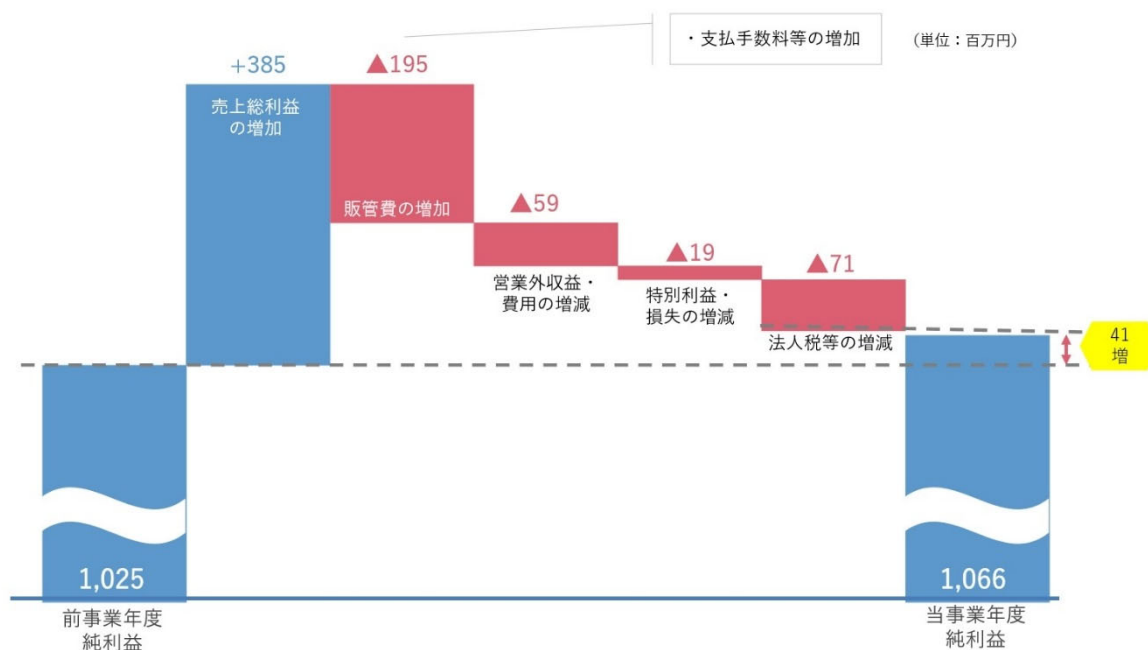
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

昨年度の貸借対照表におきましては、主な理由は当然、売上高が伸びたことで増えているものもあります。それに対しての外注さんが増えたことで、負債が増えたということもありますけれども、一番大きな理由としては、投資有価証券、つまり FRONTEO の株式の上昇が、株価の上昇というものが、非常に貸借対照表の資産の額に寄与したと見ます。

純利益の増減分析

Focus Systems

経常利益は前年比 9 %、純利益も前年比 4 % 増加で着地



© 2022 Focus Systems Corporation

13

これは、利益を増減分析した表です。

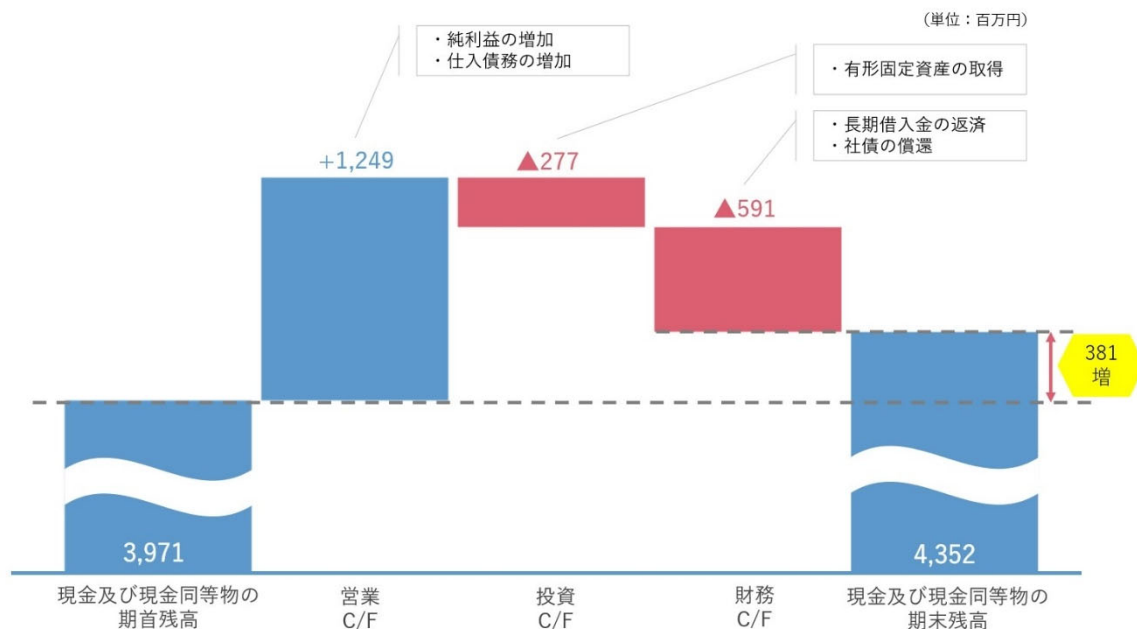
こちらのほうは見ていただければと思いますけれども、売上総利益が増加したことによって、それぞれの経費を吸収して、さらに当期利益としては 4,100 万円の増加になったという表になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

営業活動・設備投資・返済等が順調に進み、安定経営を継続



© 2022 Focus Systems Corporation

14

次が、キャッシュ・フローです。

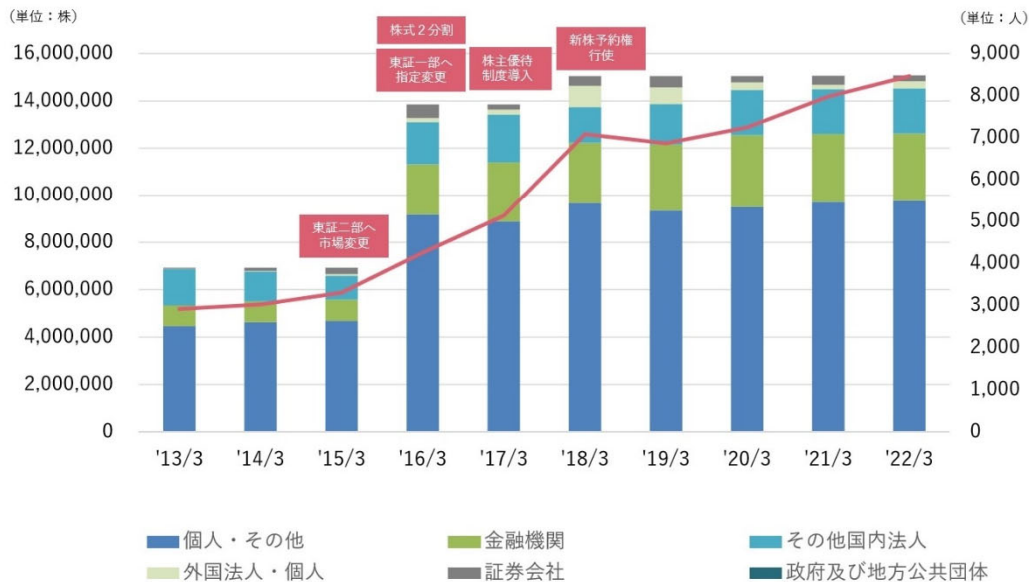
これも見ていただくとわかりますように、非常にキャッシュ・フローとしても理想的な安定経営のかたちになっています。営業キャッシュ・フローのプラス分を、投資と借入金の返済等でさらにキャッシュが増加しているかたちですので、今後はこのキャッシュを、どのようなかたちで理想的な投資に回していけるのかということが、会社としての課題なのかなと考えております。

会社としては、今後も安定した成長を続けながらも、そこで得た資金をいかに効率のいい投資に回していくのが、もう一つの課題と考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

- 2022/3末の株主総数は8,465人（2021/3末から486名増）
- 金融機関・証券会社の株数が減少した一方で、個人・外国人の株数が増加



© 2022 Focus Systems Corporation

15

次に、株主の構成および各所有株式数です。

2022年3月末の株主総数は8,465名で、これは過去最高の株主数となっております。ほとんどの数年、あまり大きな変動はないんですけれども、見ていただけるように、弊社としましては、やはり個人の株主が非常に多い会社となっております。

これも、いろんな人から相談というか、いろいろと意見をいただくんですけども、会社としてどういう株主構成にしたいんですかと。それに伴って、会社として株価を上げたいのでしょうか、それとも安定株主をつくりたいんですかと、それとも流通株式を増やしたいんですかと、というような様々な質問を受けるわけですね。

株価自体は当然、会社としてプライムに行ったということもありますので、今の株価で満足しているということは全然なくて、さらに上げたいということは当然なんですけれども、株価は実際どういったかたちで上がるのかというのは、いろいろと市場の思いもありますので、会社でなかなかコントロールできる場所ではないと思っております。

そのような中で、個人の株主の方が今5,000名以上、6,000名近く持ってくれていることに関しては、当然個人の方も大切にしていかなければならないですし、やはり会社としては、本当にこのフ

サポート

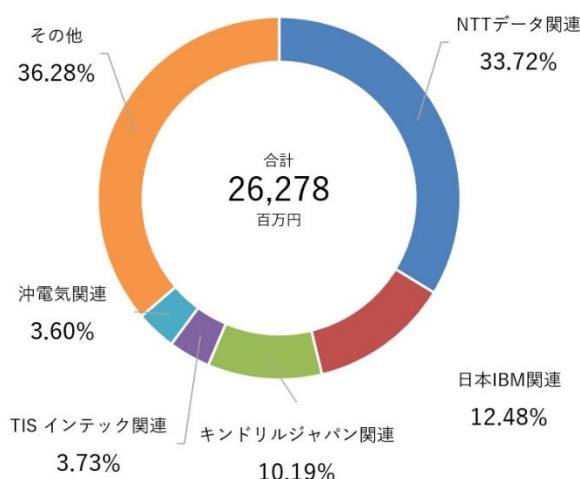
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

フォーカスという会社を大切に思って、長期で保有してくれるような株主さんが増えていくのが一番理想的だなと思っています。

主要顧客グループ別売上高構成比

Focus Systems

- 日本IBMの分社化後も、日本IBM・キンドリルジャパン両社との良好なパートナー関係が継続
- 売上高順に変動はあるものの、新規・既存顧客ともに成長基調



顧客名	FY2022 売上高 (百万円)
NTTデータ関連	8,860
日本IBM関連	3,278
キンドリルジャパン関連	2,678
TIS インテック関連	981
沖電気関連	945
その他	9,533
合計	26,278

© 2022 Focus Systems Corporation

16

次が、主要顧客グループ別売上高の構成比です。

NTT データ関連は引き続き会社で 33.72%というカタチで、日本 IBM 関連、キンドリルジャパンと合わせて、大体 5 割を超えるようなカタチになっています。

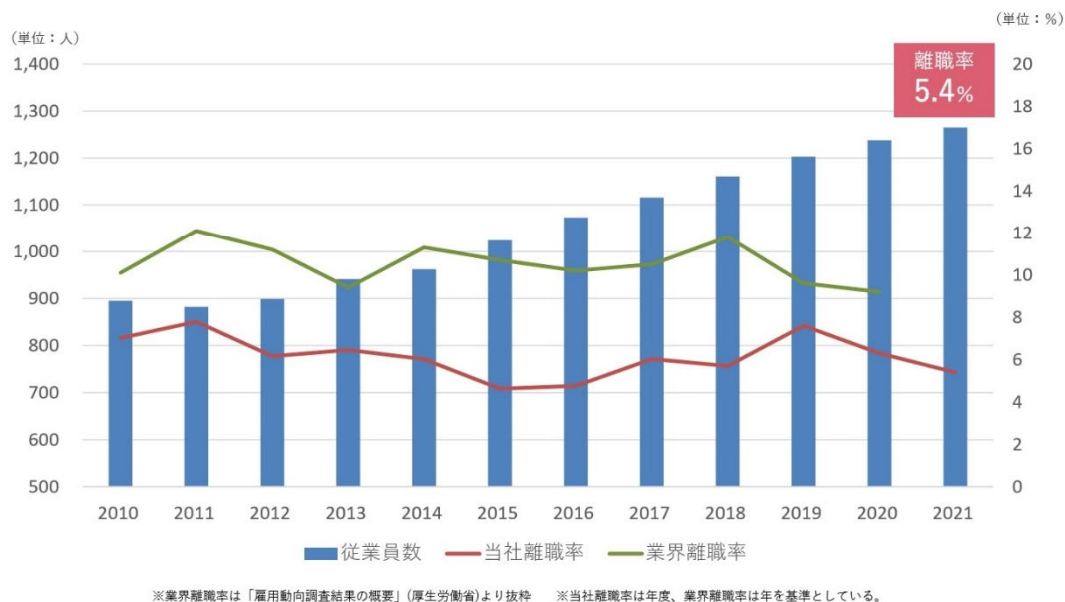
その他のほうが徐々に増えつつあるので、ポートフォリオ的には、特に今のところ問題はないと思っています。NTT データ関連ですので、NTT データだけではなくて、データの子会社関連も含めての数字ですので、そういった意味では単体の会社を見れば、ポートフォリオとしては悪いかたちではないと思っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

- 新卒・中途共に求職者に向けた情報開示を充実させる等、当社の魅力認知策を強化
- 入社後のミスマッチを減らしたことにより、離職率は順調に低下



© 2022 Focus Systems Corporation

17

続いて、これが従業員数と離職率の推移です。

赤が当社の離職率で、緑色が業界の離職率なんですけれども、昨年度に関しては5%ぐらいで、最近離職する方も非常に順調に減っていると。これは最近どうしても在宅が増えている中で、上司、管理職がいかに関心を持って一人一人に寄り添った管理、ケアをしていくのが重要ですので、そこにきちんと力を入れて見ているというのが、離職率が減っている大きな原因ではないかと思っております。

以上が、昨年度の決算の概要です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



■ 過去最高の売上高・利益を継続。

■ 配当金は「30.00円/株」と、FY2023は3円増配を予定。

	FY2022 実績 (百万円)	FY2023 予想 (百万円)	前期比増減率 (%)
売上高	26,278	27,500	4.6
営業利益	1,640	1,800	9.7
経常利益	1,600	1,820	13.7
当期純利益	1,066	1,220	14.4

	FY2022 実績	FY2023 予想
1株当たり当期純利益 (円)	70.76	80.91
1株当たり配当金 (円)	27.00	30.00
	(内訳) 中間配当 5.00	(内訳) 中間配当 5.00
	普通配当 20.00	期末配当 25.00
	特別配当 2.00	
配当性向 (%)	38.2	37.1

19

© 2022 Focus Systems Corporation

続きまして、今年度の業績予想についてお話をさせていただきます。

今年度は、さらに過去最高の売上高・利益を継続するという意味で、計画を立てさせていただいております。売上高が275億円、営業利益18億円、経常利益18億2,000万円、当期純利益12億2,000万円ということで、昨年と比較しましても、利益に関してはほぼ10%以上の伸びを予想していますし、売上高については4.6%なんですけれども、何も問題なければ、これを上回る数字になるのかなと思っております。また、その時点でそういうのが明確になりましたら、ご報告させていただきたいと思っております。

また、配当金のほうも昨年度27円と、過去最高の配当金にしましたけれども、今期もさらに3円プラスして、30円とさせていただいております。

配当性向が37.1%ということで、ほぼほぼこの数年40%、30%台の後半ぐらいをずっと維持しているかたちの配当性向になっておりますので、特に会社としてどれぐらいの配当性向ということは発表していないんですけれども、ここに出していただいているぐらいの配当性向は、可能な限り維持していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

以上が今年度の予測でして、今年度も特に大きな問題がなければ、順調に推移するのかなと思って
おります。今、世の中、コロナの影響があり、それが落ち着いたときに、またロシアとウクライナ
等の問題もありますけれども、そちらも直接は、会社としては特に影響がない状況です。

ただ今後、様々なかたちで物価の上昇が起こったときに、それがどのようなかたちでIT業界のほ
うに、ITのほうに関わってくるのかというのは、まだなんとなく予想できない状況ですので、今
後の世界情勢、そして日本情勢の推移も見極めながら、会社としてはきちんとそういった情報に負
けずにですね、着実な成長発展を、今年度も目指してやっていきたいと思っております。

昨年度、非常に順調ですので、あまりこれとってお話することもなくて、順調な1年でしたとい
うのが会社としてのあれです。引き続き、皆様のご支援をよろしく願いいたします。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

司会 [Q]：それでは、これより質疑応答に移ります。会場参加の方で、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。オンラインでご参加の方は、Q&A 機能にてご質問をお寄せください。ご質問はありますか。今、オンラインでご質問が来ております。

気候変動リスクについて、何か対応はしていますかというご質問に回答いたします。

森 [A]：気候変動リスクへの対応なんですけれども、特にプライム市場に上場、くら替えしたことによって、この気候変動リスクは強く求められている現状があります。

弊社でも、IT 業界ということで、CO2 の削減とか、気候変動というのにあまり関係のない業界なんですけれども、その中でもサステナビリティ委員会を設けまして、それを中心に気候関連財務情報の開示とか、そういうものも含めて今検討をしている状況です。

また社内では、省エネ、省資源、廃棄物の削減といった活動にも、積極的に取り組みを実施しております。また、環境省にもちょっと足を運んで、今後どういったかたちで国がそういった面を考えているのかということ、共に議論の場を持たせていただきながら、環境に即した IT の開発も一緒に仕事ができないかということも視野に入れながら、そういった動きもさせていただいているところです。

気候変動リスクというものが、もう会社としては、日本としては世界的に非常に求められているところですので、そこに関しては、会社としても重要事項として捉えて取り組んでいこうと思っております。以上です。

司会 [M]：そのほか、ご質問はございませんでしょうか。では、ご質問がございませんので、質疑応答を終了いたします。

それでは、これにて株式会社フォーカスシステムズ、2022 年 3 月期決算説明会を終了させていただきます。

本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

脚注 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com